大規模荷主	1荷主の物流部門における二酸化炭素排出量の把握								2環境に配慮している貨物輸送事業者の選定								3物流拠点の活用による輸配送の効率化				4積載率の向上による輸配送の効率化												5計画的な貨物輸送による輸配送の効率化												6その他輸配送の効率化により輸送距離及び回数を削減する取組				7低燃費車等の積極的利用及びエコドライブの促進																8サードパーティーロジスティクスの活用				9共同輸配送も視野に入れたモーダルシフトの推進				10その他の必要な取組			
印刷・同関連業	1-(1)二酸化炭素排出量の把握及び課題等の抽出				1-(2)貨物輸送事業者と自社関連部門における情報共有及び改善に向けた取組の実施				2-(1)貨物輸送事業者に対する二酸化炭素排出量削減計画の提出確認				2-(2)貨物輸送事業者の環境配慮の確認				3物流拠点の活用による輸配送の効率化				4-(1)商品・荷姿・梱包資材の形状の標準化や軽量化等による積載率の向上				4-(2)混載便の利用や共同輸配送の取組				4-(3)輸送量及び積載率を考慮した適正車種での発注				5-(1)発注時間及び配送時間のルール化				5-(2)道路混雑時の輸配送の見直し				5-(3)輸送車両の構内や周辺道路等における待機時間の削減のための取組				6その他輸配送の効率化により輸送距離及び回数を削減する取組				7-(1)貨物輸送事業者に対する、低燃費車又は省エネルギー支援機器搭載車（以下、「低燃費車等」）の利用要請				7-(2)貨物輸送事業者に対する、エコドライブの実施要請				7-(3)貨物輸送事業者に対する、低燃費車等の利用状況やエコドライブの実施状況の確認、改善に向けた取組の実施				7-(4)構内アイドリング防止のための取組				8サードパーティーロジスティクスの活用				9共同輸配送も視野に入れたモーダルシフトの推進				10その他の必要な取組			
事業者名	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置	R6	R7	R8	取組措置
共同印刷株式会社　川島ソリューションセンター	○	○	○	軽油使用量によるエネルギー原単位票（CO2）排出量含）を提出させている。	○	○	○	定例会議を実施して、課題や問題点等の情報を共有し物流の効率化に取り組んでいる。	○	○	○	法令上提出の義務はない事業者であるため、任意の改善方策を提出させている。 （「東京都貨物評価制度」で「三つ星」を連続獲得したことが改善方策として提出された）	○	○	○	ISO14000認証と環境方針の確認を実施している。	○	○	○	大型案件について他拠点とも連携し分散納品等の処置を実施。それにより効率的な配車スケジュール構築に至っている。	○	○	○	出荷用の梱包資材を標準化し積載時のムダが発生しない様計画的なモノづくりを実施している。	○	○	○	配送地域ごとに多品種製品を混載させる計画を事前に行っている。	○	○	○	製品の荷姿、重量、形状等を事前に把握し適正は車種選定を行っている。	○	○	○	納日前日の一定時間までの発注とし予定を立てて発送させている。	○	○	○	朝の混雑をする時間帯を避けるため必要に応じて出荷時間を早める等の対応を行っている。	○	○	○	納品、引き取りの計画を立て、スケジュール管理を行っている。	○	○	○	計画的な配送、配車予定を構築する事で効率的な輸送を実施している。	○	○	○	ハイブリッド2t車　1台	○	○	○	環境保全活動カードをドライバーへ配布している。	○	○	○	環境保全活動カードをドライバーへ配布しエコドライブ推奨活動を実施している。	○	○	○	構内アイドリングストップの周知及び掲示。	—	—	—		○	○	○	大型物件の場合、JR貨物のコンテナ輸送に変更している。		○	○	プラコン内の積載量を増加して、トラックの積み荷量を軽減する事で定期配車トラック台数を削減する事で、CO2排出量を減らす取り組み。
共同印刷株式会社　鶴ヶ島工場,	○	○	○	軽油使用量によるエネルギー原単位票（CO2）排出量含）を提出させている。	○	○	○	定例会議を実施して、課題や問題点等の情報を共有し物流の効率化に取り組んでいる。	○	○	○	法令上提出の義務はない事業者であるため、任意の改善方策を提出させている。 （「東京都貨物評価制度」で「三つ星」を連続獲得したことが改善方策として提出された）	○	○	○	ISO14000認証と環境方針の確認を実施している。	○	○	○	大型案件について他拠点とも連携し分散納品等の処置を実施。それにより効率的な配車スケジュール構築に至っている。	○	○	○	出荷用の梱包資材を標準化し積載時のムダが発生しない様計画的なモノづくりを実施している。	○	○	○	配送地域ごとに多品種製品を混載させる計画を事前に行っている。	○	○	○	製品の荷姿、重量、形状等を事前に把握し適正は車種選定を行っている。	○	○	○	納日前日の一定時間までの発注とし予定を立てて発送させている。	○	○	○	朝の混雑をする時間帯を避けるため必要に応じて出荷時間を早める等の対応を行っている。	○	○	○	納品、引き取りの計画を立て、スケジュール管理を行っている。	○	○	○	計画的な配送、配車予定を構築する事で効率的な輸送を実施している。	○	○	○	ハイブリッド2t車　1台	○	○	○	環境保全活動カードをドライバーへ配布している。	○	○	○	環境保全活動カードをドライバーへ配布しエコドライブ推奨活動を実施している。	○	○	○	構内アイドリングストップの周知及び日常確認を実施。	—	—	—		○	○	○	大型物件の場合、JR貨物のコンテナ輸送に変更している。	—	—	—	
大日本印刷株式会社	○	○	○	社内基幹システムによりトンキロ法にて把握	○	○	○	社内基幹システムと委託物流会社（グループ会社）の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進	○	○	○	輸送業務をグループ内の専門会社に委託、グループ含めたGHG削減計画の策定及び定期報告。社内監査による活動状況の把握及び助言を行う。	○	○	○	輸送業務をグループ内の専門会社に委託、グループ含めたGHG削減計画の策定及び定期報告。社内監査による活動状況の把握及び助言を行う。	○	○	○	委託物流会社が各エリアに物流拠点を持ち効率化を図っている。	○	○	○	自動化設備による製品梱包の統一化を継続管理	○	○	○	社内基幹システムと委託物流会社（グループ会社）の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進	○	○	○	社内基幹システムと委託物流会社（グループ会社）の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進	○	○	○	社内基幹システムと委託物流会社（グループ会社）の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進	—	—	—		○	○	○	構内に荷捌き場、待機駐車場所を確保しているため、維持管理を徹底	—	—	—		○	○	○	グループ会社を含めたCHG排出量削減目標の設定、社内サステナビリティ監査による活動状況の確認及び助言を行う。	○	○	○	グループ会社を含めたCHG排出量削減目標の設定、社内サステナビリティ監査による活動状況の確認及び助言を行う。	○	○	○	グループ会社を含めたCHG排出量削減目標の設定、社内サステナビリティ監査による活動状況の確認及び助言を行う。	○	○	○	構内に休憩場所を確保	○	○	○	社内基幹システムと委託物流会社（グループ会社）の物流ステムを連携し最適な業務設計を推進	○	○	○	グループ内の各製造・物流会社間のシステム連携により、全体の業務を効率化	—	—	—	
TOPPANエッジ株式会社　嵐山工場	○	○	○	改正省エネ法(荷主)にて、トンキロ法の原単位増減理由の確認、および課題の抽出、経営層との情報共有を行っている。	○	○	○	社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。	○	○	○	輸送の協力会社に自動車地球温暖化対策計画書の提出を依頼	○	○	○	委託事業者は、ISO14001の取得を確認済。輸送の協力会社の燃料使用量と走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。	○	○	○	拠点工場（朝霞工場）を活用した効率的な輸送を実施	○	○	○	梱包形状の統一化	—	—	—		—	—	—		○	○	○	基本的に1日1便の定期便のみの配送としている	—	—	—		○	○	○	定期便による待ち時間を抑えた効率運用	—	—	—		○	○	○	ハイブリッド車の利用やデジタルタコメーターの設置などを要請	○	○	○	輸送の協力会社にはエコドライブの実施を推奨	○	○	○	改正省エネ法(荷主)にて燃費情報を確認し、毎年燃費向上の要請を行っている。	○	○	○	構内注意喚起の表示	○	○	○	輸送業務は専門業者に外部委託している。	—	—	—		—	—	—	
トッパン株式会社　川口事業所	○	○	○	改正省エネ法(荷主)にて、トンキロ法の原単位増減理由の確認、および課題の抽出、経営層との情報共有を行っている。	○	○	○	社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。	○	○	○	輸送の協力会社に自動車地球温暖化対策計画書等の提出を依頼。	○	○	○	委託事業者は、ISO14001の取得を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。	○	○	○	輸送業務の専門ファミリー会社の拠点を利用。	○	○	○	製品や材料のサイズなどにより、パレットへの適正な積み付けを行っている。	○	○	○	社内の事業所間の定期輸送は混載便を使用。	○	○	○	製品や材料の輸送量に応じて適正な輸送車を配車している。	○	○	○	生産計画に応じて計画的に輸送し納品。	○	○	○	道路状況に応じて輸送経路を選択するなど努めている。	○	○	○	トラック用の自動入退場ゲートを設置。 輸送部門の担当者が、トラックの来場を把握し適宜誘導。	○	○	○	生産計画時にできるだけ1ヵ所の拠点で生産することを優先。 複数拠点で生産の場合、配送計画も立てて輸送距離・回数を削減。	○	○	○	輸送の協力会社については、低燃費車又は省エネルギー支援機器搭載車を使用している会社を積極的に利用することにより、使用を促進。	○	○	○	輸送の協力会社にはエコドライブの実施を推奨。	○	○	○	デジタルタコメーターなどで状況確認。	○	○	○	社内の待機場所・ルールを決めて基本的に社内駐車とし、路上駐車は禁止。	○	○	○	輸送業務は輸送専門ファミリー会社に委託し、社内の生産管理部門と連携することにより業務を効率化。	—	—	—		○	○	○	客先からの受注に対して生産拠点の最適地を選定。 インプラント化により中間製品の輸送等の削減。
トッパン株式会社　幸手工場	○	○	○	貨物の輸送重量・輸送距離・輸送便からCO2排出量を算出している。 改正省エネ法(荷主)にて、トンキロ法の原単位増減理由の確認、および課題の抽出、経営層との情報共有を行っている。	○	○	○	使用している貨物輸送事業者と物流部門とで定期的に監査を実施。エコドライブ活動等の確認を行っている。又、施策としては、得意先様との連携による、輸配送効率向上施策 （荷姿統一化、軽量化等の推進）を行っている。	—	—	—		○	○	○	契約更新時にグリーン経営認証等の取得状況を確認している	—	—	—		○	○	○	基本的に定型パレット（1100mmX1100mm）への積み付けを実施している	○	○	○	同一方面への輸送や少量の際は他社との混載便での輸送を実施している	○	○	○	車両を発注する際に事前に貨物重量・パレット数を把握し適正な車両で発注している	—	—	—		○	○	○	事前の道路混雑等が予想される場合は出発時間を早めたり、高速等の使用を許可している	—	—	—		—	—	—		—	—	—		○	○	○	アイドリングストップの励行を要請している	—	—	—		○	○	○	構内に待機場所があり、アイドリングストップ看板を工場敷地内に設置し、委託運送会社に通達している	○	○	○	輸送及び倉庫の一部業務を別会社と協力し活用している	—	—	—		—	—	—	
トッパン株式会社　坂戸事業所	○	○	○	改正省エネ法(荷主)にて、トンキロ法の原単位増減理由の確認、および課題の抽出、経営層との情報共有を行っている。	○	○	○	社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。	○	○	○	輸送の協力会社に自動車地球温暖化対策計画書等の提出を依頼。	○	○	○	委託事業者は、ISO14001の取得を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。	○	○	○	輸送業務の専門ファミリー会社の拠点を利用。	○	○	○	製品や材料のサイズなどにより、パレットへの適正な積み付けを行っている。	○	○	○	社内の事業所間の定期輸送は混載便を使用。	○	○	○	製品や材料の輸送量に応じて適正な輸送車を配車している。	○	○	○	生産計画に応じて計画的に輸送し納品。	○	○	○	道路状況に応じて輸送経路を選択するなど努めている。	○	○	○	トラック用の自動入退場ゲートを設置。 輸送部門の担当者が、トラックの来場を把握し適宜誘導。	○	○	○	生産計画時にできるだけ1ヵ所の拠点で生産することを優先。 複数拠点で生産の場合、配送計画も立てて輸送距離・回数を削減。	○	○	○	輸送の協力会社については、低燃費車又は省エネルギー支援機器搭載車を使用している会社を積極的に利用することにより、使用を促進。	○	○	○	輸送の協力会社にはエコドライブの実施を推奨。	○	○	○	デジタルタコメーターなどで状況確認。	○	○	○	社内の待機場所・ルールを決めて基本的に社内駐車とし、路上駐車は禁止。	○	○	○	輸送業務は輸送専門ファミリー会社に委託し、社内の生産管理部門と連携することにより業務を効率化。	—	—	—		○	○	○	客先からの受注に対して生産拠点の最適地を選定。 インプラント化により中間製品の輸送等の削減。
トッパンホールディングス株式会社　朝霞事業所	○	○	○	改正省エネ法(荷主)にて、トンキロ法の原単位増減理由の確認、および課題の抽出、経営層との情報共有を行っている。	○	○	○	社内の生産管理部門、社内の輸送管理部門、輸送の協力会社で連絡会議等を実施。定期便について荷物の量を連携して車の大きさや便数を調整する。	○	○	○	輸送の協力会社に自動車地球温暖化対策計画書の提出を依頼	○	○	○	委託事業者は、ISO14001の取得を確認済。 輸送の協力会社の燃料使用量と走行距離を管理し、燃費向上を依頼している。	○	○	○	協力会社の物流拠点を活用している	○	○	○	梱包形状・パレット規格は統一されている	○	○	○	3PL事業者にて同一エリア内の発注は極力積み合わせや混載便を利用	○	○	○	3PL事業者にて積載量に合わせて発注	○	○	○	配送指定時間を出来る限り午前・午後のように幅をもたせるように交渉し、荷物を集めて積載率を向上	○	○	○	3PL事業者にて道路混雑状況を確認	○	○	○	トラックの納品スケジュールの「見える化」を実施(納品ドライバーへのスケジュールの配信)。納品スケジュールを受付とドックで誰でも閲覧できるようにしている。また車両が集中する時間帯には待ち時間が発生する事もあるが、電話連絡し削減している。	○	○	○	工場間、協力会社間と連携して定期便を活用している	○	○	○	デジタルタコメーターの設置などを要請	○	○	○	エコドライブなどの実施を要請、実績確認	○	○	○	デジタルタコメーターなどで状況を随時確認	○	○	○	場内空地へ車両を誘導している	○	○	○	協力会社間と連携している	○	○	○		○	○	○	生産拠点の最適地化、インプラント化による輸送距離の削減
トッパンホールディングス株式会社　総合研究所	—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		○	○	○	廃棄物回収は廃棄物のストックがトラック1台分になってから業者手配。	○	○	○	宅配業者の配送時刻をルール化。	—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		—	—	—		○	○	○	工事業者に対し周辺道路での路上駐停車を禁止を通達。 アイドリングストップ看板を駐車場に3箇所設置済み。	—	—	—		—	—	—		—	—	—	